

第65回

平浩二の「甘い」関係 ハニー・ナイツと

昭和の時代のチョコレートのコマソーンといえば、上原ゆかりがかわいらしかったマーブルチョコの歌と、

タイガース時代の沢田研二が歌っていた「チョッコレート、チョッコレート」がすぐに思い浮かびます。マーブルチョコを歌っていたのは、久里千春とハニー・ナイツという男性ボーカルグループでした。昭和30年代まで、コマソーン歌手の中心にいたのは楠トシエで、男性コーラスではダーク・ダックスとボニー・ジャックスが存在感を示していたのですが、40年代になるとハニー・ナイツが台頭してきます。

昭和44年に一世を風靡した丸善石油のコマソーンを、はつみかんな(後の、しばたはつみ)と一緒に歌っていたのも彼らでした。

「オー、モーレツ」が流行していた同じ頃、私は深夜放送で耳にした「オー・チン・チン」というユーモアソングを歌っているのがハニー・ナイツというグループだということを知ることになるのですが、彼らとモー

レツの小川ローザが結びつくことはありませんでした。彼らの存在がメジャーになったのは、昭和45年から始まつたエメロンクリーミルinksの「ふりむかないで」のCMでしょう。札幌、東京、名古屋、大阪など日本中をロケして後ろ姿の若い女性に声をかけて振り向かせるという趣向は、男性の覗き心をくすぐる効果もあり、リンクの普及と歌のヒット、そしてハニー・ナイツの知名度アップに寄与します。

グループは昭和49年に解散しますが、リードボーカリストの鈴木稔は、すでに特撮变身もの『ウルトラマンA』の主題歌などを手がけていました。

そして、一躍「葵まさひこ」の名

で作・編曲家として活躍の場を広げ、すでに特撮変身もの『ウルトラマンA』の主題歌などを手がけていました。

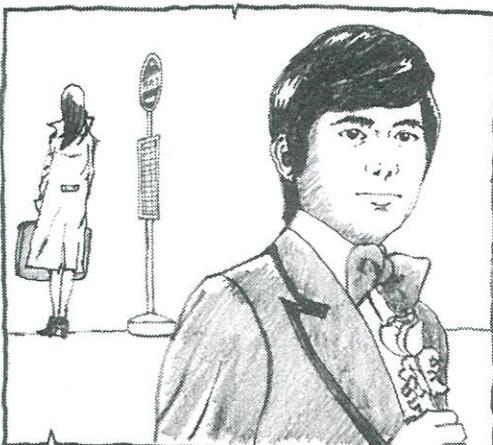
残念ながら作曲家・葵まさひこは昭和59年、47歳で早世しますが、彼の作品には自らの青春時代に親しんだ音楽を再現するかのようなオールディーズ風の曲がいくつもあり、あの楽しさを今の歌謡ファンに味わわせたい、という確信犯的な心境が感じられたものです。

平浩二の「バス・ストップ」「夢物語」はプラターズの『オンリー・ユー』、ニール・セダカの『恋の日記』を彷彿させ、ミミ(後のミミ萩原)の『おしゃれな土曜日』『恋人たちの森』、サンディー・アイ(後のサンディー&ザ・サンセッツ)の『くちづけは許して』などの旋律・コーラスにはオールディーズのエキスがたっぷりと詰め込まれていました。

名曲カルテ



堀井六郎
絵・松本 浦



は、昭和45年から始まつたエメロンクリーミルinksの「ふりむかないで」のCMでしょう。札幌、東京、名古屋、大阪など日本中をロケして後ろ姿の若い女性に声をかけて振り向かせるという趣向は、男性の覗き心をくすぐる効果もあり、リンクの普及と歌のヒット、そしてハニー・ナイツの知名度アップに寄与します。

平浩二は昭和44年、20歳の年にデビューリーしますが、翌年に西田佐知子の『女の意地』をカバーして同曲のリバイバルブームに一役買つた以外は目立つた活躍もなかつた時期にこの曲に出逢い、人気歌手の仲間入りをします。作詞家・千家和也の織り成す「別れ話の映像化」に磨きがかかってきた頃です。

和47年、平浩二に提供した『バス・ストップ』(詞・千家和也)でした。